

第二號

月十日 結

機密

申外交

陸軍省 第一號

米一機密合第一號

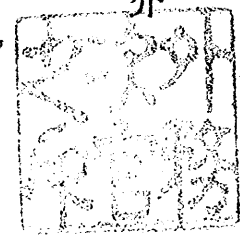
昭和十三年一月一日



別紙添付

外務次官 堀内謙介

陸軍次官 梅津美治郎 殿



「パナイ」號事件ニ關シ十二月十七日附米國大使館「エイド、メモアール」ニ對スル回答文寫送付ノ件

「パナイ」號事件ニ關シ曩ニ十二月十七日附ヲ以テ米國大使館ヨリ覺ヲ送付越セル次第ハ十二月二十一日附米一機密第五六八〇號往信ヲ以テ申進置キタル處本件ニ關シ二十三日午後陸海軍係官ヨリ夫々米國大使ニ對シ詳細説明相成タル際ノ説明書要綱ニ基キ詳細事情ヲ縷述シ以テ前記米國側公文ニ對スル回答ト致置キタルニ付テハ右回答文寫茲許送付ス

外務省

米一機密第一七五號

口 上 書

帝國外務省ハ米國大使館ヨリ十二月十七日附「エード・メモアール」ヲ以テ貴國軍艦「ベネイ」號攻撃ニ關シ米國政府ノ目下接受シツツアル情報告ハ生獲者カ沈没シツツアル「ベネイ」號ヨリ遊離シツツアリシ際日本軍飛行機ハ急降下シ極メテ低高度ニ於テ諸機銃ニ機關銃ヲ以テ射撃ヲ加ヘタルコト「ベネイ」號沈没前帝國陸軍所屬發動機二隻ハ同艦ニ接近シ之ニ機關銃射撃ヲ加ヘ斜桁ニ國旗掲揚シアリテ容易ニ之ヲ識別シ得ヘカリシユモ不拘同艦ニ乗込ミタル上五分間艦内ニ在リタルコト且生獲者ハ河岸ニ達スルヤ飛行機カ全員殲滅ノ爲探索ヲ行ヒツツアルモノノ如ク繰返シ飛行シ退レルヲ以テ生獲者ヲ離散シテ四散シタルコトヲ記述セラレ右ハ米國軍艦「ベネイ」號及米國商船ヲ攻撃シタル帝國武裝部隊ニ於テ故意アリシコトヲ極メテ遺囑ニ示スモノニ

シテ米國政府ハ其ノ現在接受シツツアル情報故ニ右情報ノ性質ノ重大
 性ニ付テ帝國政府ノ注意ヲ喚起スル旨御申越ノ次第ヲ蒙承セリ
 本件ニ關シテハ益々進展ニ基キテ發生シタルコトハ東京及上海ニ於テ
 貴大使館及在上海貴國官憲ニ對シ既ニ説述シタル所竝十二月二十三
 日
 陸海軍當局ヨリ貴大使ニ對シ詳細説明セル所ニヨリ御諒承アリタルコ
 トト確信スル次第ナル處詳細調査ノ結果ニヨル情報ニ基キ左記ノ通り
 回答申進スルノ光榮ヲ有ス

昭和十二年十二月二十七日

記

帝國海軍航空隊ハ十二月十一日以來南京方面ノ支那軍隊多數船舶ニヨ
 リテ揚子江上流方面ニ敗走シツツアリ又此等支那船舶ハ南京及ヒ上流
 某地點間ヲ往復シツツアリトノ情報ニ接シ殊ニ十二月正午ニハ一大小
 汽船十隻及ヒ我軍多數支那軍退却兵ヲ搭載シ南京上流十二哩乃至二十

五哩附近ヲ避江中ナリ」トノ情報ニ接スルニ及ヒ我航空隊ハ機ヲ遣セ
 ス之カ攻撃ニ向ヒタル次第ナリ此ノ際在上海米國總領事ヨリ帝國總領
 事ニ對シテ「パネイ」號及米國商船三隻南京上流二十七哩附近ニ在リ
 トノ通報有之右ハ帝國軍艦出雲ニ在ル帝國海軍支那方面艦隊司令部ニ
 電話ヲ以テ傳達セラレ司令部ハ時ヲ移サス之ヲ航空隊司令部ニ電報
 スル所有之タルモ航空隊司令部カ實際ニ右電報ヲ接受シタルハ午後四
 時三十分（上海時間）以後ノコトニシテ航空隊トシテハ南京上流二十
 七哩附近ニ米國軍艦在リシ事實ヲ全然豫想タニセス「パネイ」號及其
 他ノ米國商船ヲ前記支那船舶中ノ一部ナリト誤信シ之ニ爆撃ヲ加ヘタ
 ル次第ナリ帝國軍隊ニ於テハ支那軍隊ノ輸送ニ從事スル支那船舶以外
 ノ船舶ハ絕對ニ攻撃セサルヘキ極嚴重命令セラレ且ツ右ニ付屢々軍ノ
 注意ヲ喚起セラレ居ルモノニシテ例之十一月二十七日鎮江攻撃ノ際支
 那軍ノ大部分カ船舶ニ便乘シ敗走シツツアルヲ確認シツツモ右支那船
 船附近ニ外國船舶アリタルカ故ニ遂ニ激兵攻撃ヲ斷念シタルカ如キ事

實アル外多數ノ類似事例アル次第ナリ然ルニ敵國首都南京攻略ナル最モ感激的且ツ興奮セル際ニ於テ「確實ニ敵退却部隊ノ搭乗セル支那船ヲアリ」トノ情報ニ固ク信倚シタル航空隊ニ對シ「右附近ニ外國船舶モ在リ」トノ報道適時ニ通知ナカリシコトハ此ノ如キ重大錯誤ヲ生セシメタル一原因ナリ

敵上ノ如キ情況ヲ以テ攻撃ニ向ヒタル帝國海軍航空機ハ攻撃實施ニ當リテハ勿論出來得ル限りノ注意ヲ拂ヒテ船舶ノ国籍確認ニ努メタル上確實ニ外國々旗ヲ認メサリシモノト信シテ攻撃ヲ實施シタルモノナルカ當日揚子江上ニハ霧アリ加アルニ南京蕪湖方面ニ於テ支那軍退却兵ノ放火ニヨル火災及彼我激戦ノ砲煙等ノ爲觀認狀況極メテ不良ナリシタメ本件米國艦船ヲ識別シ得サリシコトハ甚タ遺憾トスル所ナリ帝國海軍飛行機ハ本件攻撃ニ當リ二機乃至六機ノ群ニ分レテ行動シ各飛行機群ハ各別個ニ支那軍隊ヲ索メテ攻撃ヲ行ヘリ從而同一飛行機ニシテ二回以上ニ亘リテ同一目標ヲ攻撃シタルモノナシ

面シテ第一次爆撃後「パネイ」號附近ニ在リタル米國商船カ江岸ニ横
 着シ之等船舶ヨリ多數支那人避退シタリシ處之ヲ飛行機上ヨリ觀ルト
 中數百人ヨリ成ル支那軍隊敗走スルカ如クニ思考セラレタル爲海軍飛
 行機ハ益々此等船舶ヲ以テ支那船舶ナリトスルノ自信ヲ強メ之カ爲ニ
 之等船舶ヲ攻撃シタリトノコトナリ而シテ當時「パネイ」號附近ニ「
 スタンダード」會社所屬船三隻アリタルコトニ關シ航空隊ニ對スル通
 知問ニ合ハサリシ次第ハ前述ノ通りニシテ且ツ此等船舶ヨリ多數支那
 人カ上陸避退シタルコトカ戦闘員ヲシテ之ヲ敗走中ノ支那兵ナリト誤
 認セシムルニ至リタルコトハ寔ニ不幸ナル事實ニシテ當時偶々附近ニ
 來着シタル日本陸軍兵モ亦海軍航空隊ノ飛行機ニヨリ支那軍隊ノ一部
 ナリト誤認セラレ爲ニ死傷者一死者二、負傷者三）ヲモ生シタルコト
 ハ海軍側トシテ誠ニ遺憾トスル所ニシテ當時ノ事件カ種々ナル原因ニ
 基テ純然タル誤解ニ依ルモノナルコトニ關シテハ敘上事實ヲ冷靜ニ考
 察スルニ於テハ充分了解セララルモノト思考ス

飛行機ヨリノ銃撃ニ關シテハ當初簡單ナル調査ニ基キ斯ノ如キ事實ナ
キモノト認メラレ居タル處其ノ後詳細調査ノ結果當日午後一時三十七
分頃商船ヲ撃撃シタル飛行機ノ内一機カ爆撃ト同時ニ短時間機銃射撃
ヲ行ヒタルコト判明シ其他ノ飛行機ハ機銃射撃ヲナシタルモノナキコ
ト明カトナレリ

遭難者救助ニ關スル發動機關ニ付キ海軍側ノ調査ニ依レハ其ノ要點
左ノ通り

十三日ニ至リ「パネイ」號撃沈ノ事實判明スルト共ニ艦隊側ニ於テハ
大ニ之ヲ憂慮シ不取敢遭難者救助ニ全力ヲ盡スコトトナリ飛行機ニ參
謀、軍醫官、看護兵曹及領事館員ヲ搭乘セシメ之ヲ現場ニ急派スル一
方無線電信ヲ以テ艦隊參謀長ヨリ陸軍部隊參謀長ニ對シテ「南京上流
二十七哩附近ニ於テ米國砲艦「パネイ」號及商船三隻我飛行機ニ依リ
撃沈セラレタル事件アリ其ノ生存者ヲ和縣ニ收容致スヘキ旨米國側ヨ
リ申出アリタルニ付テハ其附近ヲ占領セル部隊ニ對シ此ノ一行ヲ射撃

セサル様又出来得ル限り救護作業ヲ援助スル如ク御取計ヲ得度」旨依頼スル所アリタリ同時ニ海軍飛行機ヲシテ附近ノ陸軍部隊ニ對シテモ支那方面艦隊參謀長ノ名ニ於テ「速ニ最近部隊長ニ知ラヌコト我航空機ノ爆撃ニ依リ沈没セル米國軍艦「パネイ」號及同艦ニ在リシ南京在留米國避難民生存者約五十四名和縣ニ上陸避難シアリ速ニ救助ノ上保護セラレ度方面軍司令部トハ協議済」トノ趣旨ノ「ピラ」ヲ撤布セシメタルモ當時和縣附近ニハ我カ陸軍部隊存在セス更ニ蕪湖ニ赴キテ附近ニ在リタル陸軍部隊ニ對シ右「ピラ」ヲ撤布セシメタル次第ナリ右ノ依頼ヲ受ケタル蕪湖ニ在ル陸軍部隊ハ當時同地ニハ軍醫官居ラザリシ爲直ニ約八杆ノ地點ヨリ軍醫官ヲ招致シ發動艇二隻ヲ以テ二十八杆ノ距離ヲ急行セシメ十四日夕刻和縣附近ニ到着直ニ上陸シ遭難者救護ニ赴カントシタリシカ當時附近陸岸ニハ支那軍陣地アリ盛ニ我發動艇ヲ攻撃シタルタメ我カ軍醫官ノ身邊防護ノ爲發動艇ニ乗艇シアリタル少數ノ護衛兵ノミヲ以テシテハ支那軍ヲ擊退スルコト能ハス又射撃

ノ爲遭難者ニ對シ危險ヲ與アルコトヲ欲セス當時附近ニ來合セ居タル米國軍艦「オアフ」號及英國軍艦「ビー」號ノ助力ヲ得テ遭難者ヲ救出スルコトトシ我カ陸軍々醫官ハ艦隊參謀ノ案内ニテ不取敢「オアフ」號及「ビー」號ヲ往訪シタル上見舞ノ辭ヲ述ヘテ辭去シタル事實アリタリ

然ルニ此ノ事實カ誤リ傳ヘラレ我カ陸軍發勅艦カ遭難者救助ヲ妨害セリト云ヒ又ハ「赤十字旗ヲ掲ケタル我陸軍兵カ戰鬥ニ參加セリ」等ノ虛報傳ヘラレタル模様ナル處前述ノ如キ事實ニ鑑ミルモ陸軍々醫官ノ努力ニ對シ艦隊トシテハ深ク感謝スルト共ニ無根ノ虛報ニ對シ甚多遺憾ニ堪ヘストナシ居ル次第ナリ

尙當時附近陸岸ノ支那兵カ此ノ遭難者救助作業ニ對シテ爲シタル妨害ハ猛烈ヲ極メ我カ海軍飛行機ノ爆撃後揚子江左岸ニ擱坐シタル「メイフ」號船長其他一名ノ死體カ同船々橋ニ在ルヲ遭難後直チニ收容セントシタルモ陸岸ヨリノ支那兵ノ射撃ニ遮ラレ之カ收容ヲ爲スコトヲ得

ス漸ク十五日ユ運リ日本軍艦ノ砲撃ニ依リ支那軍ヲ制壓シツツ日本海
 軍々人ノ手ニ依リ右死體ヲ日本軍艦保護ニ收容シ次テ之ヲ「オアア」
 號ニ移シタルカ如キ状況ニシテ「パネイ」號事件ノ經過調査上附近陸
 岸ヨリ支那島力盛ニ米英人及日本人ノ見境モナク盛ニ之ヲ射撃シタル
 ノ事實ハ冷靜ニ且ツ審ニ研究スルノ要アルモノト認メラル
 陸軍ノ發動艦カ「パネイ」號遭難當時其ノ附近ニ在リシコトニ付テハ
 十七日頃右ノ如キ事實アリタルヘシトノ情報艦隊司令部ニ傳ヘラレシ
 ヲ以テ同司令部ニ於テモ急遽陸軍部隊ニ對シテモ右事實ノ調査ヲ正式
 ニ依頼シ十八日夕刻漸ク右事實ノ一端判明スルニ至リタル次第ニシテ
 海軍飛行機カ米國艦船ヲ錯視ニ因リ爆撃セル事件發生セサリセハ陸軍
 發動艦ハ無事ニ「パネイ」號附近ヲ通過シタルナルヘシ（十二日午前
 ニ其ノ實例アリ）「パネイ」號ハ揚子江ノ流レニ從ヒテ碇泊シ居リシ
 ヲ以テ上流方向ヨリ下航シ來レル船艦ニヨリテハ同艦ノ艦尾又ハ「ガ
 ーフ」ニ掲ケアリシ米國軍艦旗ヲ噴煙スルコトハ到底不可能ナリシナ

リ又陸軍發動艦ハ五隻ノ艦船ヲ認メ右カ支那ノ艦船ナリトセハ發動艦
 ヲ以テ之ト戰闘スルコトハ危險ナリトノ見地ヨリ避退セルカ當時兩者
 ノ距離ハ約三千五百米ナリシヲ以テ到底米國軍艦ノ艦首旗ト雖モ識別
 シ得サリシナルヘク後面日本海軍飛行機ト戰闘中ノ之等艦船ヲ直覺的
 ニ支那艦船ニ相異ナシト判斷シ何等疑ヲ挾マサリシハ已ムヲ得サリシ
 次第ナリ更ニ右發動艦カ積極的ニ五隻ノ艦船ヲ攻撃シタルカ如キ處
 報ヲ傳ヘラレタル處ナル處發動艦ト砲艦ト戰闘ヲ交ヘタル場合ニハ其
 ノ何レカ勝利ヲ占ムヘキヤヲ知レル底ノ常戰アル者ニ對シ斯種虛報ハ
 全然信賴シ得サル所ナルヘシ

尙水機ニ十二月九日日本總領事ヨリ在上海領事團首席總領事ニ對シテ
 揚子江沿岸第三國船舶車輛ヲ交戰地域外ニ移轉方申入レタル日本軍ノ
 希望ハ上海方面ニ於ケル陸海軍協議ノ結果ニ基クモノニシテ右申入ノ
 動機ハ支那側カ屢々第三國ノ權利ヲ濫用シテ支那軍ノ戰闘行動ヲ利ス
 ルコトアリ例之支那軍隊カ鎮江及蕪湖方面ニ於テ船舶又ハ戎寬ニ依リ

退却セントシツツアル時日本軍ノ飛行機飛來スルヲ見ルヤ一齊ニ其附近ニ碇泊中ナリシ外國船舶（從來米國艦船ハ其ノ中ニ認メサリシモ）ノ至近ノ距離ニ集結シ爲ニ日本軍トシテハ折角ノ敵ヲ發見シ乍ラモ之ニ對スル攻撃ヲ中止スルノ已ムナキニ至レルカ如キ之ニシテ斯ル實例多クアリタル次第ナリ

日本軍ニ於テハ帝國總領事ヨリ此ノ如キ申入ヲ爲シタリト雖モ第三國船舶ヲ攻撃スルカ如キコトハ考慮シ居ラス此ノ申入ニ關シテハ陸軍及海軍最高司令部ニ於テノミ承知シ居リ實施部隊ニ對シテハ斯ノ如キ申入ヲ爲シタルコトヲ通知シ置カサリシノミナラス確實ニ支那軍隊ヲ搭載セル支那船舶以外ノモノハ攻撃スヘカラサル旨注意ヲ促シアリタリ而テ尙今回ノ如キ大事件ヲ惹起シタルコトハ誠ニ遺憾ノ至リニシテ其錯誤ノ原因ニ付テハ以上説述ノ通りナリ

「パネイ」號爆撃機陸軍所屬發動機ヨリ射撃ヲ受ケ且日本兵同艦ニ乗込ミタリトノ點ニ關シテハ大本營陸軍部ヨリ十二月二十二日附發表

ヲ以テ短時間「パネイ」號ニ乗込ミタル事實アルモ同艦ヲ目標トシテ
 ル射撃ノ事實ナキ旨中外ニ闡明スル所アリタルモ陸軍側ノ現地調査ニ
 基ク當時ノ情況左ノ如シ

十二月十一日上海方面日本軍主力ハ三方ヨリ前進シ南京ヲ包圍攻撃中
 ナリシカ某部隊（歩、砲、工兵部隊ヨリ成ル）ハ蕪湖ヨリ北進十一日
 主力ハ石馬河附近ニテ揚子江ヲ渡河シ翌十二日左岸ニ沿ヒ浦口方面ニ
 前進セリ

右部隊主力ニ屬スル山砲隊ハ陸行ノ困難ヲ避クル爲工兵部隊主力ノ發
 動機ニ搭乗シ揚子江上ヲ主力ニ稍々通レテ續行シ居タル處右部隊ノ一
 部ハ十二日午前浦口ニ至ル途中心國艦艇ニ遭遇シ我一中尉ハ米艦ニ至
 リ名刺ヲ交換シ敬意ヲ表シタル事實アリ

右部隊ハ數日前其一小歩兵部隊（歩兵大尉ノ指揮スル中隊ニシテ輕機
 關銃數挺ヲ有スルモ重機關銃及通信機材ヲ有セス）ヲ蕪湖ニ殘置シア
 リタルカ他部隊力長興方面ヨリ蕪湖ニ到着セルヲ以テ本部隊長ハ主力

渡河ヲ了スルト共ニ工具ノ一部隊（前述米艦ト交應シタルトハ別個ノ
部隊ナリ）ヲ大小發動艇十數隻ト共ニ廻航セシメ右殘留部隊ヲ搭載ノ
上浦口方向本部隊主力ニ追付カシメントシタリ

右殘留部隊（中隊）ハ別ニ砲兵隊列若干名及衛生隊ヲ附シタル負傷者
約二十名ヲ有シ之等ノ處置ニ手間取リシ爲十二日午後一時過太平洋府ヲ
出發下航ノ途ニ就ケリ當時右中隊ハ數日前ヨリ孤立シ居リ又通信器材
ヲ有セス主力トノ連絡少カリシ爲友軍ノ一部カ既ニ當日午前遙カ下流
ニテ此等米艦艦艇ト交應セル事實等ヲ全然知ラスシテ前進セル次第ナ
リ

右歩兵中隊ハ當時小發動艇二隻（該小發動艇ニハ旋回機關銃ヲ有シ居
レリ）ニ將校及兵約二十五名ヲ搭載セシメテ斥候ト爲シ主力ハ其後方
約三百米ニ二列縱隊ト成リ最後方ニ負傷者等ヲ搭載セシメタル後發支
那小船ヲ從ヘ前進セリ

中隊長ハ斥候タル小發動艇ニ在テ深有附近ヲ前進中ナリシ處午後二時

三十分過一之等時間ノ配遣ハ五機ヲ保シ難シ一着カ前方約三千米ノ水
 平線上ニ黒煙ヲ見次テ大ナル汽船狀ノモノ四個、小蒸汽船二隻ノ體體
 ヲ認メタリ

中隊長ハ與艦ニ右ヲ敗走支那軍ヲ搭載セル支那汽船ナリト信シ直ニ後
 方ニ續行スル舟艇群ヲ右旋回シテ後退右岸ニ接着セシメ自己ハ稍前進
 シテ尙偵察シタルモ倭艦國旗等ヲ認メス且其ノ大ナルモノハ約五百噸
 モアランカト思ハルル汽船數隻カ江上ニ展開ノ態勢ヲ執リアリタルヲ
 以テ若シ之ニ攻撃セラルルニ於テハ我小發動艇ハ容易ニ撃沈セラルヘ
 キヲ恐レ安全地帯ヲ求メ直ニ全部隊ヲ上陸セシメ堤防ノ麓ニ掩蔽セシ
 メタリ當時中隊長ハ右汽船ヲ攻撃スル等ノ意圖ヲ全ク有セス之ニ抵抗
 スヘク無力ナルヲ知り只管部隊ノ發見セラルルヲ慮レタルノ實狀ナリ
 此時中隊長ハ一小隊長及兵約十五名ヲ堤防東側三、四十米ニ又一下士
 斥候ヲ堤防ニ沿ヒテ前方ニ派シ情況偵察ニ當ラシメタルカ之等ニ對シ
 中隊長ハ其命令トシテ前方ノ汽船ハ敵敗殘兵ヲ搭載シ居ルヤモ知レサ

ルニ付充分注意シ徒ラニ射撃セサル様命令セリ

斯クテ間々無ク(午後三時頃ナルヘシ)飛行機四、五機上空ニ現ハレ
 之等汽船ヲ爆撃シタルカ一機ハ水中ニ落下シ次テ二機ハ中央ニ在リタ
 ル船(砲艦ナリシナルヘシ)ニ命中シタリ同船ヨリハ重機關銃ヲ以テ
 應ジニ我カ飛行機ニ對シ射撃シ又小隊長及新聞記者一名ハ砲艦二、三
 ヲ開ケリト言フモ確實ナラス他ノ三隻ハ各一旋回スルヤニ覺エタルカ
 一隻ハ影ヲ披シ一隻ハ左岸近クニ在リ他ノ一隻ハ右岸馬鞍山棧橋ニ接
 着セリ

大型汽船カ爆撃セラレ居リシ頃左岸近クニ在リシ赤煙突ノ小蒸汽船二
 隻ハ逸早ク上流方向ニ急走ヲ開始セルカ右ハ支那人ヲ滿載シ居ル様
 メラレタルヲ以テ工兵中隊長ハ支那軍敗殘兵ノ逃走ト認メ直ニ附近ノ
 小發動機一ヲシテ上流ヨリ迂迴シテ逃走スル船ノ先頭ヲ壓スル如クセ
 シメ次テ大發動機ニ旋回機關銃ヲ搭セ換エ續イテ急追セシメ隨岸ヨリ
 ハ小銃並ニ輕機關銃ヲ以テ之ヲ射撃セリ(右射距離千八百ナリキ)

右小蒸汽船ノ内一隻ハ進ニ進走セルモ彼方ノ一隻ハ船首方向ニ進ル我
 小發動艇ノ射撃及彼方ヨリ進ル大發動艇ニ追ハレ途中三度接岸シテ落
 載人員ノ陸岸ニ逃走スルヲ見タルカ進ニ揚子江支流ノ「クリータ」中
 ニ入り我發動艇ニ捕獲セラレタリ

右小蒸汽船ニハ船員タル男女十一名及小兒一名ノ支那人在リタルカ船
 長ハ逃走シテ盡ラス同船ハ爾後船員ト共ニ我軍ニ於テ使役中ナルカ船
 員ノ言ニ依レハ同船ハ無難ニ於テ支那兵多數ノ乗船ヲ強制セラレ之ヲ
 搭載南京ニ向ケ下航ノ途中既ニ南京ニハ入り得サルヲ知リ進行中偶々
 本隊艦ニ遭遇シタル事ナリ（本小蒸汽船點檢ノ結果弾痕（機關銃）數
 十カ悉ク蝕ノ爾後整備ニ左右略同數ニアルト認メタリ）

從軍一通信員ハ更ニ三隻ノ大型小蒸汽船カ下流ニ逃走セル旨進ヘ居レ
 ルモ右ハ確實ナラス

當時中隊主力ハ棧橋ヨリ上流約二千米ノ箇所ニ隱蔽シ居リ（舟艇ハ尙
 後方即上流ニ位置セリ）機防上ノ下士卒候ハ約八百乃至千米迄接近シ

偵察セルカ支那兵ヲシキモノ多數下船スルヲ認メ之ヲ支那軍敗殘兵ナ
 リト思量シ輕機關銃ヲ以テ輕少數射撃ヲ加ヘタリ右方ニ派セラレ居リ
 シ小隊長ハ射撃スルコト無ク船中ヲ前進シタル處右下船人員中ニ西洋
 人ト覺シキ者交ルヲ認メ直ニ其背後方ニ報告シ射撃ヲ戒シムルト共ニ
 自己ハ直ニ棧橋ニ至リ歩兵中隊長モ亦棧橋ニ急行セリ

歩兵中隊長棧橋到着時小隊長ハ多少英語ヲ話スハ下船者中ノ支那人
 ヲ一群ニ集合セシメ置キ本船カ「スタンダード」會社所屬船ナル旨ヲ
 報告シタリ茲ニ於テ始メテ中隊長ハ右カ米船タルコトヲ知り又前岸近
 ク沈ミツツアルハ米砲艦ナルヲ知レリ

中隊長ハ直ニ上陸セル米人十數名中二、三名ノ頭及手等ニ負傷（輕傷）
 セルヲ認メ看護兵ヲ呼ビテ之ニ手當セシメルト共ニ從軍セル通信員ノ
 通譯ニヨリ種々ノ會話ヲナセリ一方支那人中ニ敗殘兵無キヤヲ調査セ
 シメ且ツ船長ノ同意ヲ得テ兵約一分隊ヲ乗船ノ上同シク敗殘兵ノ有無
 ヲ調査セシメタリ

當時負傷ノ手當ヲ受ケシ米國人及船内ニテ消火ヲ終ヘタル米國人船員
ハ非常ニ喜ヒ百個以上ノ紙巻煙草及菓子ヲ兵ニ分配シ且ツ握手ヲ求メ
再三謝意ヲ表シタリ(最初中隊長ハ兵ニ謝シ上官ノ許可ヲタテ物品ヲ受
クヘカラサル旨ヲ注意シタル由ナリ) 草ノ上衣ヲ着セル一見飛行士ト
見ユル米國人ハ煙草(ネイヴィー、カット) 數個ノ口ヲ切りテ兵ニ與
ヘ次テ「ポケット」中ヨリ「ウイスキー」瓶ヲ出シ之ヲ通譯等ニ勸メ
タリ

以下ハ船長及水先案内(蘇廣祿ナル支那人)ト通譯トノ會話ノ要點ナ
ルモノナリ

通「爆撃ノ際何故旗ヲ振ラサリシヤ」

水「旗ヲ振ラサルモ船上ニ表示シアリ」

通「何故ニ速ニ南京附近ヲ立退カサリシヤ」

水「「タンク」ノ後始末ニテ通レタリ」

通「何所ニ赴クヤ」

船長「上海ニ赴ク」

通「上海ハ反側ノ方角ナラスヤ」

船長「我誤解セリ」

（水先案内モ行先ニ付キ同様ノ返答ヲ爲シタル由ニシテ通譯ニ其誤ヲ指摘セラルルヤ途ヲ誤リタルコトヲ認メタリト云フ）

通「我飛行機力誤ツテ爆撃セルハ誠ニ遺憾ナリ」

船長「戦時ニハ當然ナリ吾々ノ避難ノ道レタルカ悪シ」

（通譯茲ニ於テ米人ノ從來ノ對日好意ヲ謝シ蘇州兵工廠ノ例ヲ引ク）

通「砲艦ノ艦長ハ如何セシヤ」

船長「艦長ハ小蒸汽ニテ彼岸ニ逃レタリ」

船長「砲艦（パネイ號）ヲ當方ニ引キ來ラレタシ」

通譯之ヲ歩兵中隊長ニ問ヒ工兵中隊長ヲ呼ヘリ更ニ船長ニ對シ下流約六、七百米ニアリタル他ノ汽船ヲ呼ヒ寄サシメタルニ船長之ニ從ヒ艦ヲ該船ハ棧橋附近ニ來リ既ニ接着シ居リタル汽船ノ外側ニ並列碇泊セ

中隊長ハ一同ノ意ヲウナル姿ヲ見（「シヤツ」ヲ脱シアリ上衣ノミ）
 船ニ歸ルコトヲ勸メタルモ一同燃撃ヲ恐レ躊躇ノ模様アリタレハ我軍
 カ茲ニ在ル以上安心ナリト有メ約半數ハ船ニ引返シタリ船長ハ保護ノ
 爲南京能同行ヲ請ヘルモ中隊長ハ上官ノ命ナクシテハ實行シ得スト答
 ヘタリ

先ニ調査セル支那人中一名敗殘兵ノ疑アル者ヲ捕縛シアリタルモ革ノ
 上衣ヲ着セル米國人カ十數年ノ友人ナリトシテ熱心ニ釋放ヲ請ヒタル
 ニ依リ船長ニ保證ヲ求メタル所船長ハ保證書ヲ持來ルトテ船ニ引返シ
 タリ

此ノ時米國人中ニハ艦隊ニ南京能乗船同行ヲ勸メ又中隊長等ニ船中ニ
 置リテ「ロービー」ヲ飲ム被勸メタルモ之ヲ謝絶セリ

工兵中隊長ハ此時ニ來リ米國船ナルコトヲ知り傳令ヲ以テ後方ニ退散
 一約千米上流ニ在リ一セル舟艇中ヨリ小發動艇二ツ一將校ニ指揮セシ

メ砲艦ヲ觀察ニ赴カシメタリ當時砲艦ハ艦ニ半ハ沈ミ艦上ニハ益々人影ナカリシモ敵將校ハ兵小數一一名ト云フ一ト共ニ乗艦一瞥ノ後沈没ノ危険ヲ恐レ一、二分ニテ退去セリ當時右岸ノ歩兵中隊長及通譯ハ相顧ミテ將ニ沈没ニ顧シツツアル艦上ニ上ル工兵ノ勇敢ヲ賞シ合ヘリト云フ工兵中隊長ノ命令ハ簡單ニ「沈没シツツアルカノ砲艦ヲ見來タル可シ」ト云フニアリシモ勿論其ノ意味ハ船内ニ負傷者殘置ノ有無、救援ノ可能等ヲ調査スル意ナリシコトハ明カナリ

此時前岸等ニハ益々人ノ氣配ナカリシ越ナリ斯クスル内先キニ上陸セル米國人等約半數ハ乗船シ中隊長以下我兵一同ハ棧橋上船側ニ立チ歩兵中隊長ハ工兵中隊長ト之等ノ船舶ヲ保護同行スルノ可否ニツキ論議中再ヒ我飛行機二機上空ニ現レタリ

中隊長ハ大イニ驚キ直ニ附近ノ兵ノ日章旗ヲ持ツ者總ヘテニ命シ之ヲ振ラシメタリ其數ハ十數本或ハ二、三十本トモ云ヒ或者ハ附近ノ鐵線石ノ丘小高キ所ニ登リ或ハ帽ヲ振ル等極力爆撃ヲ止メント努メタリ

艦上エアリシ米、支人其他ハ何レモ殆ト散亂ノ形ヲ以テ各々離散ヲ求
 メタリ然ルニ飛行機ハ我ヲ圍撃セサルモノカ日本旗ヲ振ル我兵ノ頭上
 ヲ旋回シツツ爆彈ヲ投下シ一發ハ外側汽船ノ機關室前附近ニ命中大テ
 第二發ハ棧橋側ノ汽船ノ同様汽關室前ニ命中各々盛ナル火災ヲ發シ燃
 エ始メタリ

乗船中ナリシ人員ハ急遽船ヲ逃レ其内爆彈ニ傷キタル者ニ對シテハ米
 國人中ノ船醫ト思シキ者及我通譯等ニテ急キ繃帶ヲ施セリ中隊長ノ見
 タル負傷者ハ米國人重傷一、輕傷二、三名、支那人負傷者十名内外ナ
 リシ趣ナリ

我軍中ニハ此ノ爲死者下士一、兵一、負傷將校一、兵二、通信員一ヲ
 出スニ至リ他ニ工具中隊長モ亦平、村ニ輕傷ヲ蒙リタリ時ニ既ニ午盾
 六時ニ近ク日没ニ至ラントシ居リ汽船ハ既ニ燃エテ航行シ得サルヘキ
 ヲ知り中隊長ハ米國人遺體者ヲシテ約千五百米ノ丘上ニ在ル洋風家屋
 ニ赴カシメ然ル後我軍ハ舟艇ノ位置ニ歸還シタリ

同部隊ハ夜間同地附近航行ノ危険ナルヲ恐レテ其附近ニ宿營セリ
 同中隊ハ翌十三日再ヒ途中ニ於テ英艦船ニ遭遇シ同機交戦スル處アリ
 タリ斯クシテ同中隊ノ目的地到着ハ多大ノ時日ヲ遅延スルニ至レル大
 第ナリ

要スルニ右情況ハ數日間主力部隊ト隔離シ孤立シアリタル小部隊カ南
 京方面ヨリ脱出シテ暹江シツツアリト豫想セラルル支那軍ニ對シ戦々
 競々トシテ前進中重大ナル艦船國ニ遭遇シ最初ハ唯々其ノ攻撃シ來ル
 ヘキヲ恐レ居タル處次テ米國關係ノ艦船ナルヲ知りテ大イニ安堵シ自
 己任務ノ遲延スルヲモ顧ミヌ亦死傷者等ノ犠牲ヲ生シタルニモ不拘爲
 シ得ル限りノ援助ト便宜ヲ與ヘ米國人ヨリモ亦衷心ヨリ感謝ヲ受ケタ
 ルモノニシテ日本軍ノ將兵ニシテ米國人ナリト知り且ツ米國艦船ナリ
 ト認識シテ尙之ヲ攻撃シ射撃スルカ如キハ想像シ得サル所ニシテ斯ル
 意思迄モ存セサリシコトハ右情況ヲ知ル者誰シモ疑念ヲ抱カサル所ナ
 リト信ス

彼上ノ如キ混亂ト人心ノ平衡ヲ失ヘル際ニ當リ若シ日本軍カ米國艦船
 又ハ米國人遭遇者ニ對シ何等カ攻撃的行動ニ出テ若ハ射撃セリ等ノ記
 憶ヲ有スルモノアリトセハ恐ラクハ明瞭ニ支那人ヲ滿載逃走ヲ企テタ
 ル前記未燃突ノ小蒸汽船ニ對スル日本軍舟艇ノ行動又ハ對岸ヨリノ射
 撃等ヲ誤リ印象ニ留メ居ルニ非スヤト思考セラルル次第ナリ
 要之斯クノ如キ錯亂セル情況ニ於テ發生シタル事件ハ一日本兵ノ米國
 艦船及米國人ニ對スル敵意ノ有無一ヲ探求スルコトニヨリ專斷判明ス
 ヘキ次第ナル處我カ陸軍部隊ノ行動ハ米國艦船及米國人ニ對シ何等敵
 意ヲ有セザリシハ勿論米國軍艦ト知リツツ計畫的ニ之ヲ攻撃スルカ如
 キハ有り得ヘカラサルコトニシテ又陸軍部隊ニ死傷者ヲ生シ居ルヨリ
 見テ陸海軍ノ間ニ協同策謀アル等測定信シ得サルコトハ以上ノ説明ニ
 ヲリ明瞭ナルヘシ